

■海士ワゴン関連ギャラリー

第1回 出前授業

■5月19日

■岩本 悠(いわもと ゆう)

・著書「流学日記」の収入でアフガニスタンに学校建設
・小中高で講演

■流学ワークショップ

世界を5感を使って体感する。
海士の良さを気づかせる。

■海士中学校全学年対象

■参加者 29名

(一橋、津田塾、慶応、大阪産業、京大、社会人他)

出前授業からの波及 パート1

流学ワークショップ 第2弾

■8月18日

■流学ワークショップ(日本版)

第1回目のメンバーが再度来町し自主的に開催

日本を5感を使って体感する

■中高生対象 20人

岩本悠 氏

～ 教育を通して
社会貢献を目指す ～



海士で暮らすことを決意



第1回海士中出前講座



世界の流学ゲーム

第2弾 国内流学ゲーム



次は海士版流学ゲームを
全国へ…

第2回 出前授業

■9月1日

■榎栄 ひかる(ひえ ひかる)

日本IBM(株)で、ビジネスコミュニケーション研修講師として活動するかたわら、インプロ(即興劇)のメソッドをビジネス研修に応用した、より体感型の研修の開発実施を行っている。

Ena Communication Inc. 取締役社長

■インプロ(即興劇)を使ったワークショップ

■海士小、海士中 全学年対象

■参加者 21名

(一橋、明治、東京都立、大阪産業、成蹊、県立大、島大、社会人他)



第2回 AMAワゴン 榎栄ひかる氏

インプロ(即興劇)
によるワークショップ

<Yes, and>でコミュニケーション

■相手から投げ入れられた気持ちを先ずイエスで受け入れる。

■相手の意図を察して自分の想いを融合させて相手に返す

■人間関係を深め活性化

■自分と向き合い、自分を好きになり魅力的な人格形成 善循環へ

■一方「No, but」は思考をブロック

悪循環へ

榎栄ひかる氏の紹介



大学時代をアメリカ、オレゴン州の州立大学で心理学を専攻、副専攻でアートを勉強する。

帰国後、大阪にて英会話スクール経営、オリンピック選手の通訳の仕事に就く。
その後、東京に拠点を移し、アイ・ビー・エム・アジアパシフィックにて社内外のイベントや国際会議のコーディネーターの仕事をした後、現在の日本アイ・ビー・エム研修サービス株式会社に移って、社内・外の人材育成プログラム(リーダーシップ、コーチング、プレゼンテーションスキル、ビジネスコミュニケーションスキル、対人対応)の各コースを中心に、新しい時代に向けて、管理者、中堅、新人技術者、女性などを対象にビジネス研修を提供。

2002年5月にハワイで会社を登記し、2003年2月に独立
現在も日本アイ・ビー・エム研修サービス株式会社より研修の提供サービスをご依頼頂き活動中。
そのかたわらで、インプロ(即興劇)のメソッドをビジネス研修に応用してより体感型の研修の開発実施を行っています。

株式会社 Ena Communication 取締役社長

著書『Yes, andですべてはうまくいく!』ぜひ、
ご覧下さい。

第3回 出前授業

■10月6日

■井上 英之(いのうえ ひでゆき)

- ・慶應義塾大学専任講師、NPO法人ETIC、ソーシャルベンチャーセンタープロデューサー、東京ソーシャルベンチャーズ代表
- ・慶応大学経済学部卒。在学中より緊急援助NGOで奥尻島援助やルワンダ難民帰還プロジェクトに参画。公共セクターマネジメントの必要性を実感しワシントン大学大学院に進学、パブリックマネジメント(公共経営)を専攻。ワシントンDC市政府(市長室/財務計画室)にて行政評価を中心とした経営改革業務を経験。
- ・日本初のソーシャルベンチャー向けビジネスコンテスト「style」を開催するなど社会起業家の育成・振興に取り組む

■隠岐で考える世界の変え方

■海士中 全学年対象

■参加者 21名

(一橋、慶応、明治、都立、大阪産業、島大、県立大、社会人他)



井上英之 氏

隠岐で考える“世界の変え方”～

「自分」って結構すごい！？



出前授業からの波及 パート2

谷口正俊氏ワークショップ開催



谷口 正俊 氏

1973年生まれ 33歳。東京都在住。

早稲田大学商学部卒業後、(株)ベネッセコーポレーションをへて、2000年4月、友人と二人で「教育を通じてよりよい世の中へ」という理念を掲げ、株式会社ウィル・シードを創業。代表取締役副社長として、学校教育事業、企業内人財開発事業を展開。「気づき、きっかけ、感動の種をまく」というコンセプトを体現した体感型プログラムが市場で高い評価を受けている。主なクライアント先に三井物産、JPモルガン、日産自動車、花王など。また全国約40の自治体で年間約1万4千人の子どもたちの授業を実施している。今年8月末に同社を退任後、日本とベトナムを結ぶ人材の架け橋を創る事業の立ち上げを行っている。

「世の中体感ゲーム」の紹介と実践

- 海士町子どもたちに、新しい体験型教育プログラムを作るために、まず大人が体験してみても一緒に教育プログラムを作ってみませんか？...



海士発東京行き 逆AMAワゴン

- 東京発 海士行き AMAワゴン

いつものコースを逆行する逆AMAワゴンで

一橋大学の大学祭 “一橋祭”に参加

日時 平成18年11月3日(金)～6日(月)

海士町から11名が東京へ。一橋大学の学生や、AMAワゴンで海士町を訪れた学生、海士町出身で東京の大学在学中の学生と交流しながら、学園祭で海士町のPRを行いました。

海士町産鮮米での餅つきや、サザエやスルメの販売で海士コーナーは大にぎわい。



国立市長初め、首都圏在住の出郷者の方々や、新宿日本語学校の留学生など、多くの人々が、大学祭の海士町のブースに来て下さって、再会の輪が...



第4回 出前授業

■11月27日

■西上 ありさ(にしがみ ありさ)

studio-S 代表

兵庫県姫路市の沖合にある家島(いえしま)群島のひとつ、家島にてまちづくり企画

《「探られる島」プロジェクト》を運営。

全国から様々な専門性を持つ学生・社会人が集結し、島の外に住む人からの様々な視点で家島の魅力を発掘している。その報告をまとめた冊子はまちづくりの新しいスタイルとして、全国各方面のメディアやまちづくり関係者に注目されている。

■「島づくりと紙力」島の魅力を伝える本を作成

～ 海士の魅力と悩みをまとめて180頁の本に ～

■海士中 全学年対象

■参加者 20名

(一橋大、明治大、東京都立大、東京理科大、慶応大、拓殖大、愛知教育大、大阪産業大、京都大、島根大、島根県立大、社会人他)

■「島作りと紙力」～海士の魅力をまとめて180頁の本に～

●魅力を探る

海士で出版されたパンフレットやチラシ等を切り貼りして、
「海士のこれが素晴らしい」と思うものを組み合わせる



●把握する

魅力と悩みを発表しあう
町の魅力を探った結果を本にまとめ、世界に一つだけの本を作る



●「まちづくり」への第1歩

1人で出来ることから十人、百人、千人と出来ることを考える



京都大学生 海士合宿

- 8月21日～24日
- 第1回海士ワゴンの参加者提案
- 中学の先生から部活の指導者が必要と要望
- フットサル合宿をしながら指導
- 京大生 17人参加
- 中学生の部活、補習の手伝い
- 子どもに夢と希望を与える講義(経験談)
部活、受験勉強、中高校の思い出、
大学での研究



盆踊り復活

- 8月15日
- 盆踊り準備、手伝い
中学生、一橋学生他、立命館APU学生、
ゲンキ地球ネットスタッフ、商品開発研修生、
実行委員、役場職員



成人式

- 8月15日
- 式典
- 中学生による海士PR
一橋大学の講義を再現
- Iターン宮崎雅也(一橋大出身)の講演
「海士には未来がある！」
⇒作って売ることのすばらしさ



交流の始まりは、2005海士中修学旅行

2006修学旅行 さらに内容充実！

- 6月29日 国立市
- 海士中学校修学旅行
一橋大学で講義 隠岐のPR
産業、歴史文化(北前船、神楽、民謡)
大学生との意見交換、手品
- 中学2年生 20名
- 国立市でホームステイ





ゲロ吐きツアー

・インプロ(即興劇)の専門家である樋栄ひかる氏(第2回 出前授業講師)が、企業経営者・作家などの仲間10数名を連れて再来島→冬の海士の魅力を発見する旅

・日程:2月16日～21日

・町民参加型の音楽イベント(2/18)やトークディスカッション(2/20)を開催→音楽イベントでは、同時期に来島していた音楽家の方と地元高校生による、サックスやバンドネオン・ギター・ピアノ・ジャンベなど多数の楽器を用いたセッションも

Yes,andなトークディスカッション

・個性的なゲロ吐きツアー参加メンバー達によるトークディスカッション→多数の町民も聴衆として参加

・パネラー中村伸一氏(旅行会社・地球探検隊社長(隊長)、佐藤英明氏(作家)、岩本悠氏(海士町教育コーディネーター)、尾野寛明氏(古書店会長・一橋大学院生)

・話題は、「人生の転機」や「受験体験」「親子関係」など多岐に渡るものに

